

四谷の

千枚田だより



第201号

サミット
を成功に導
いた「お助け
隊は、その大
きな自信、余

お知らせ

六月六日(土)、開催予定の
「みんなで灯そう千枚田」

「お田植感謝の夕べ」

は中止します

鞍掛山麓千枚田保存会

今年で十五回を迎える「お田植感謝の夕べ」も新型コロナウイルス感染症まん延(三つの密を防止するため開催を中止します。

そもそも、この催しは平成十七年第十一回全国棚田(千枚田)サミットがこの地で開催されることになり、連谷校区住民が一体となり、サミットを成功させようと頑張りをみせ、地域の絆を深めた。

特に、活躍をみせたのはサミットを成功させようと連谷地区の若い衆が「サミットお助け隊」を結成、サミットの裏方(主役)としてサミット成功に導いた。

韻を翌年「連谷お助け隊」と名を改め、田植えの終わった平成十八日六月三日、「四谷の千枚田のお田植感謝祭!」と銘打って地区住民に呼びかけ、2006年に因んで作業道に600本のロウソクを灯し幻想的な世界を醸し出した。

「思い出しに」催し当日は雨の予想、隊のリーダー林義明に「雨が降ったら、どうせるだん」と聞いたら「雨く? そんなもん考えとらん、いらんこと考えとっちゃあ、何にもできん」と明快な返事が懐かしい。

十年を機に保存会が引き継ぎ、毎年開催しているが、入梅の最中にも拘わらず、お天道さまも味方して、未だ雨知らずで開催されてきたが、新型コロナウイルスは性悪で、「開催中止」は主催者側として苦渋の選択と理解いただき、来年の開催に希望を託したいと思っております。

来年、参加の皆さんは、今から協力の小銭を貯めるなど、準備をしておいて下さい。

写真で観る千枚田の田植え頃



田植え

五月十四日、鳳来寺小学校五年生十名は四谷の千枚田の学習田三枚の田植えを行った。

児童たちは一月十日に一年先輩の児童と一緒に田お越し、田んぼ飛びを行い、皆んな顔なじみである。担任の先生から児童たちが「おじさん」に会いたい」と言っているから是非との連絡を受け、他所の用事をソコソコにして田植えに間に合わせた。田植えはアツという間に終わり、お米のことや、千枚田の自然や文化等々の話をし、多くの児童から結構、鋭い質問をうけ、タジタジ、かえってこちらが勉強になった。



「四谷の千枚田だより」

200号達成に感謝

大林 丸山惇志

「その任ではないが…」舜二氏の郷土に寄せる日頃の情熱に、感謝を込めて称えたい、

「千枚田だより」200号達成。初刊は平成十五年九月というから、実に十六年七か月。気の遠くなるような歳月である。誰もが真似のできる事ではない。舜二氏の強い信念「継続は力なり」と、熱い郷土愛に支えられた快挙である。

そうした多くの業績は、国も認め、首相官邸にお招き、その労をねぎらい、その底知れぬ力量を「内閣府 地域活性化伝道師」として、全国に及ぼして欲しいとの大役まで要請。そうした一連の力量は、舜二氏の郷土愛に支えられた、全くの独学研鑽の学識で、地区はもとより、市・県の誇りでもある。

「四谷の千枚田は、地域の宝、市や県の顔にもなっているが、遠い先祖方の、血と汗で残してくれた我が郷土。地域ぐるみで守って行かなければ…」と、今日も働き続ける小山保存会長さん。

それにしても、分厚い「四谷の千枚田だより」には感謝。感動。

モリアオガエルの産卵

五月二十一日の朝、千枚田の小山孝夫の田んぼで三個体のモリアオガエルが産卵した。

例年は五月下旬頃から産卵が始まるが、今年は今までに一番早い産卵であった。

千枚田におけるモリアオガエルは天王橋から上が自然分布域であった。平成十四年、ふるさと水と土ふれあい事業で農道、ふれあい広場等の整備中、保存会は田んぼの生きものの再生を図るためビオトープを造成、親子観察会を開催。その時、モリアオガエルのオタマジャクシを放流、三年後には自然再生がみられ、以降、毎年分布拡大がみられる。

この成果は田園自然再生活動センターで大臣賞受賞、また、英国BBCも十九日間の長期撮影、世界発信した場所であるし、モリアオガエルは千枚田のスターでもある。



看板の読めない観光客

五月十六日、十七日にはコロナ自粛にも拘わらず、千枚田を訪れる観光客が後を絶たなかった。

特にタモや虫かごを持った子供連れの家族や、昔でいう「アベック」さん、中には#ベ&と賑やかな外国人までもおいでになった。



景観環境整備

五月三十日(土)、保存会は千枚田入り口付近とふれあい広場の草刈りを行った。

行 令和二年六月一日
鞍掛山麓千枚田保存会
発 文 責 小山舜二